

生産農家に対しては、買取制度・拠点出荷等の新たな取り組みを行い、一方で都市近郊の大消費地を抱えており、競合他社が多い市場の中で店の差別化戦略を推し進めてきました。

出荷農家は、設立当初126名から令和3年3月現在で159名(うち多摩市の登録農家は22名)と微増傾向です。多摩市の生産農



▲みなみの恵み 全景

A自己改革、農業者の所得増大・農業生産の拡大、都民理解の醸成を目的として開設され、令和3年10月で4年を経過しました。



「JA東京みなみの直売所・みなみの恵み(日野市万願寺6-31)」は、J

家の特徴は、多様な農産物を季節に関わらず出荷していることです。季節により種類・量に偏りがあるのが一般的な農作物にあつて、多摩市の生産者は多様な野菜を出荷し続けており、大変喜ばれています。

農産物の出荷方法は、買取と委託販売が選択でき、買取は生産者に売れ残りリスクを発生させないため、大量に出荷する場合は買取を選択する傾向があります。逆に出荷が少量の場合は、委託販売を選択する傾向があり、全体的には買取が7割、委託が2割、委託が3割の状況です。令和元年と3年の同期と比較すると1.7倍と、委託販売が増加傾向にあります。品質を保持するために、委託販売の価格は、買取販売より高い売価を設定すること条件としています。

週末は、イベント・キッチンカー、多摩ニュータウン市場の出荷販売等を行っていることから、広く家族連れやご夫婦など、多数の来店があります。

ファン獲得のために、SNSツィッターによる情報発信を始め、地場産の旬な情報、イベント、レストラン情報を提供しており、すでにフォロワー数が千人を超えました。

多摩市の農業者のみなさん

祝 一般社団法人 東京都農業会議
「第62回東京都農業委員会・農業者大会」
表彰記念撮影会

多摩市から2名の農業者が表彰される予定となっていた「第62回東京都農業委員会・農業者大会」は、新型コロナウイルス対策により中止となりましたが、令和3年2月18日、KOTORIホール(昭島市民会館)で、表彰記念撮影会が行われ、萩原弘様が参加されました。



▲「業的農業経営顕彰」の東京都農業会議会長賞と東京都産業労働局長賞を複合部門でダブル受賞された萩原弘様(写真左)、「農業委員会等功労者表彰」の農業功労者感謝状を受賞された馬場茂吉様(写真右)

は、地場産野菜の出荷者としてはもちろん、お客様としても、ご来店をお待ちしています。

(農業委員 新倉隆)



▲店内のようす

編集雑感
江戸東京野菜の 亀戸大根

京都に京野菜、金沢に加賀野菜があるように、東京にも昔ながらの野菜があるのではないかと、種を調べ、江戸東京野菜を作った大竹通茂さんのお話を聞いたのは、もう15年以上も前のことです。

野菜の歴史やそれを守る農家さんのお話がおもしろく、昨年9月に江戸野菜の亀戸大根の種を蒔いてみました。

茎の色が白く、みずみずしい葉はうるぬき(間引き)から楽しめ、小ぶりの蕪のように緻密で柔らかい、とんがり型の大根ができました。

葉といっしょに浅漬けにしたり、皮むきでスライスしてシャブシャブにしたりしてもおいしい亀戸大根は、根も茎も葉も、全体にクセがなくシャキシャキとした食感で、しかも柔らかく味が濃い。

いろいろな事を楽しみながら、援農ボランティア仲間と一緒に、旬の野菜の美味しさと地場野菜の楽しみを、多くの皆様へお届けしたいと思っています。

(農業委員 青木幸子)